

学術メディアセンターだより

寒さが冬の訪れを感じさせる季節となりましたが皆さんお元気ですか！？今回は暖かい部屋でゆっくりくつろぎながら、心から温まれる様な本を紹介していきたいと思います！皆さん、是非読んでみて下さいね！

TOPICS

1. ノーベル賞と図書
2. 冬に読みたい恋愛小説
3. Merry Christmas
4. お正月に読んでほしい本

学術メディアセンターだより 8号
通巻61巻 2019年12月 (冬号)

順天堂大学医療看護学部
学術メディアセンター運営委員会
〒279-0023
千葉県浦安市高洲2-5-1
TEL. 047-355-3111

ノーベル賞と図書

今年日本人がノーベル賞を受賞しました。そこで今回は日本人ノーベル賞受賞者に関する本をご紹介します！

川端康成 1968年、ノーベル文学賞を受賞。

『雪国』 川端康成 新潮文庫

ノーベル賞を受賞した日本人は、川端康成、大江健三郎の2名です。日本人初のノーベル文学賞受賞者である川端康成の代表作『雪国』には、ノーベル文学賞をとるにいたった川端の言葉紡ぎの才能があふれています。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。」これは雪国の有名な冒頭ですが、これほど読みながら情景が浮かぶ文章はあるでしょうか。内容もよくある大人の恋なのに、川端が書くとその表現の仕方からなんとも言えない美的な物語になります。冬限定の二人の恋物語を、冬だからこそ是非読んでほしいです。

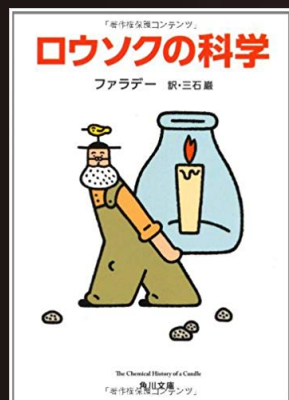


吉野彰 2019年、ノーベル化学賞を受賞。

『ろうソクの科学』 ファラデー 角川文庫

この『ろうソクの科学』という本は、今年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんだけでなく、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典さんも、科学への興味をもつ原点になった、科学者を目指すきっかけとなったとして挙げた書物です。この本はろうソクを基になぜ火が縦に燃えるのかなど我々が生活する中でふと疑問に思うような自然科学について実験を紹介しながら解説しています。

科学は苦手だと感じたり、小さな文字を読むのは気が乗らないなと思う方には、角川つばさ文庫版の『ろうソクの科学 世界の先生が教える超面白い理科』という本が『ろうソクの科学』をイラストと物語で優しく解説しているので、是非手にとって読んでみて下さい！



冬に読みたい恋愛小説

人はだ恋しくなる冬の季節に出会いのないあなたへ胸が締め付けられるような恋愛小説を紹介します。



パラレルワールド・ラブストーリー 東野圭吾
講談社文庫

今回、私が紹介するのは東野圭吾のパラレルワールド・ラブストーリーです。この本が発行されたのは1998年で、もうすでに20年以上経っていますが、今年の5月に映画化され、再び注目されるようになりました。この本は、SFとラブストーリーが融合した内容となっています。親友の恋人は、かつて自分が一目惚れした女性だった。敦賀崇史は、ずっと嫉妬に苦しんでいた。ところがある朝起きてみると、彼女は自分の恋人として横にいたのだ。どちらが現実で、どちらが空想の世界なのか混乱する崇史。交わることのない2つの世界で、恋と友情が翻弄されていく。最後に謎が解き明かされる衝撃の事実とは、、、？是非お手に取って読んでみてください。

ぼくは明日、昨日のきみとデートする 七月隆文
宝島社文庫

今回紹介する本は、七月隆文の『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』です。この本も映画化により再び人気が沸騰しました。最初から物語の後半まで読みすすめていくとずっと引きずっていた違和感が、残り数十ページで払拭されます。それと同時にもう一度読みたいという衝動に駆られます。既に映画で見た人でも、もう一度小説で読むことで、また新たな感じ方ができるかもしれません。男の子と女の子どちらの気持ちに焦点を当てるかで感動や物語の雰囲気ガラリと変わります。涙なしでは読めない最高の作品です。是非、寒い真冬に家でのんびりと読むことをお勧めします。



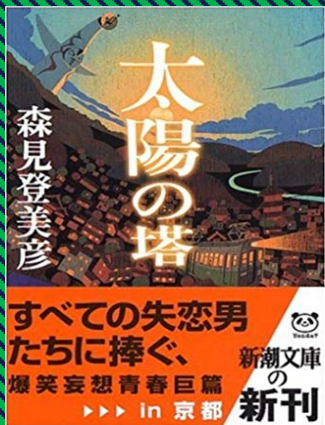
Merry Christmas

皆さん少し早いですがメリークリスマス！クリスマスのご予定はもうお決まりですか？私は彼氏を差し置いてライブに行ってきます！決まっている人もそうでない人もこれからこのページで紹介する本をぜひ読んでみてください。紹介する本はどちらもクリスマスに関連した本になっていますので、来たるクリスマスに向けてぜひ手に取ってみてください。



「ネバーランド」 恩田 陸 集英社文庫

この本は男子校に通う4人の男子高校生が寮でともに冬休みを過ごす話です。冬休みが始まったばかりの時は4人がそれぞれ打ち明けられない秘密を抱えていましたが、冬休みを過ごす中でぶつかり合いながらも少しずつ秘密を打ち明けていきます。今まで人に言いたくなかった秘密や言えなかった過去、忘れていた記憶などを打ち明けていくたびに紆余曲折しながらも絆が深まっていく様子が垣間見え、青春だなと感じられます。また、普段の学校生活では見られない一面を表したり、またその一面を受けて何かを感じ、考えたりする語り手の心情の変化がとてもよく伝わってきて、共感できる内容です。決して明るくはないけれど刺激的なクリスマスやお正月を過ごしている様子がとても楽しそうで、こんな高校生活や冬休みを送って見たかったなと思いました。これから来る冬休みにに向けてぜひ読んでみてください。誰にも言えなかった秘密を共有してみたくなるかもしれませんね。



「太陽の塔」 森見 登美彦 新潮文庫

この本は、京都を舞台に失恋した主人公とその仲間たちがクリスマスに騒動を起こす物語です。面白い点は、この主人公とその仲間たちがどうしようもなく残念であるところです。この本は全編にわたって主人公の主観で話されます。しかし、冒頭から「何かしらの点で、彼らは間違っている。何故なら私が間違っているはずがないからだ。」という文から始まるように、この主人公、とてもプライドが高い。しかし、実際は行動に移すことのできない臆病者で、まるで非リア充を象徴するかのようで、見て面白いと感じました。本自体もそこまで厚くないため、読みやすいと思います。

大阪府万博記念公園の太陽の塔 2019年 ライトアップ

https://sp.jorudan.co.jp/illumi/spot_105451.htmlより抜粋



お正月に読んでほしい本

一年の始まりの行事「お正月」。寒さも厳しいこの時期は、家でのおんびり過ごすという方が多いのではないのでしょうか。ゆっくり時間がとれるお正月に読んで頂きたい本を2冊ご紹介します。本をあまり読まないという方も多いかもしれませんが、新しいことに挑戦したい！という方は、新しい年が始まるお正月に、ぜひ読んでみてください！



「風が強く吹いている」 三浦しをん 新潮社

お正月の名物ともいえる箱根駅伝をテーマにした作品です。自らが起こした暴行事件によって、部活を辞めた天才ランナー・藤原走が箱根駅伝で走ることを夢見る清瀬灰二と出会い、十人の個性豊かな仲間たちと箱根駅伝を目指す疾走青春小説です。初めはバラバラだったチームのメンバーたちが、練習や寮生活を通して衝突しながらも絆を深めていく姿には胸が熱くなります。そして、物語終盤の駅伝シーンでは、まるで自分が駅伝で走っているような疾走感を味わうことができ、読み終わった後はとてもスッキリした心地良さを味わうことができます。映画化、アニメ化もされている人気作品です。

「雪のひとひら」 ポール・ギャリコ／矢川澄子(訳) 新潮社

ある寒い冬の日、地上から何マイルも離れたはるかな上空で生まれた「雪のひとひら」。雪という自然の姿に女性の人生をなぞらせ、ひとひらの雪が地上へ舞い降りるところから、やがて空へ蒸発するまでを描いた大人向けの童話です。長い旅のなかで、ひとひらの雪は「自分はいったい何者なのか？」「何のために、この世に生を受けてきたのか？」と生きることに疑問を抱きます。はっきりとした答えはないけれど、生きていく意味を教えてくれるそんな一冊です。文章を読む度に美しい情景が浮かんでくるようで、この本を読むと元気がもらえます。寒い寒い冬、お正月にぜひ読んでみてください。



～編集後記～

学術メディアだより冬号では、ノーベル賞に関する図書について、冬に読みたくなるラブストーリー、クリスマス、お正月に読んで欲しい本について紹介しました。寒くて、家にこもってしまうこの冬にぴったりの本ばかりです。クリスマス、お正月に関する本を読んでいたら、今年ももうすぐ終わってしまうんだなとしみじみ感じてしまいました。来年度の学術メディアだよりも頑張りますので、楽しみにしていてください。学術メディアだよりを最後まで読んで下さり、ありがとうございました。